

国土審議会 第8回北海道開発分科会 議事概要

1. 日 時:平成19年10月10日(水)12:15~14:15
2. 場 所:中央合同庁舎第3号館 4階特別会議室
3. 出席者:[委員]丹保分科会長、相原委員、家田委員、井須委員、上田委員(代理出席:札幌市市民まちづくり局 下村局長)、小川委員、金田委員、見城委員、櫻庭委員、生源寺委員、高橋委員(代理出席:嵐田北海道副知事)、橋本委員、南山委員、森地委員
[国土交通省]松島副大臣、品川北海道局長 他

4. 議事次第

- (1)開会
- (2)委員紹介
- (3)副大臣挨拶
- (4)議事
 - 1)新たな計画の基本的事項について
 - 2)新たな計画に関するコミュニケーション活動について(報告)
 - 3)その他
- (5)閉会

5. 議事及び主な発言内容

計画部会での検討状況について、南山委員(計画部会長)からの説明及び、資料2について事務局から説明がなされた後、以下のとおり議論が行われた。

【主な意見】

- ・ 国土形成計画全国計画と広域地方計画の両方に相当する2つのミッションがあり、広域地方計画に相当する部分の多くは道庁の総合計画に書かれているもの。広域地方計画が各地域にどこまで落ちるかということに関わる事だが、道庁の総合計画は、分野別の計画等により推進することとなっており、北海道では、国の計画と道庁の分野別計画等というように多重形になっていることに気をつけておかないと誤解をうける。
- ・ 広域地方計画は具体的で、社会資本整備も地域戦略とどう結びついて、どういう効果があり、従ってこういうことをやるというシナリオをイメージしている。北海道として、アジアの中でどのような特性を持っていて、どのような戦略をもつのかということ。人口減少の中で、どのようなサービスを広域で確保するのかということ。これらが1番のポイント。
- ・ 北海道庁の総合計画について、6つの広域圏で、北海道を多様で特色ある地域にしようというのは素晴らしいアウトプットだと思うが、それをブレイクダウンした、どういう生活を維持するのかという話が各論では重要。
- ・ ロシア等の近隣の話が表に出ている印象だが、北海道の位置づけをアジアの北だけで考えるのは間違い。アジア全体の中で北海道の特徴があるという風に位置づけるべき。

- アジア全体の中での北海道の位置づけという話しについて、計画部会の議論では、北米やアジアの南まで含めた地理的な位置づけの中で、北海道がどういう位置付けにあるかということを考え、広く関係する地域を睨んで議論がなされている。
- 北海道は、札幌一極であり、更に札幌以外の地域でも道東、道北、道南では全く違う。また、総人口が減っていく中で、札幌の人口は減らない。今後の人口減少の中で、札幌と札幌以外の地域とでは、取組が違ってくる。
- 仕方のない事でもあるのだが、ともすると総花的になってしまう。総花的では国民はついてこないことは明か。目玉を10個上げたらこれであるといったように、ハードと制度と運動論、これらに3つ位ずつ具体的な施策がないと、理解を得られない。
- これまでの計画のトーンは、持っているものは素晴らしく努力してきたが、条件が悪いから何とかして欲しいといった印象。しかし、例えば、北海道の観光資源が本当に素晴らしいクオリティーであるのかという反省をし、まだどこかに足りないところがあり、更なるクオリティーアップをしていくんだといったトーンを是非入れた方がよい。
- 総論として、ある意味総花的になっているのは仕方がない。産業の部分は、どういう事をやるのか分かる。しかし、暮らし方や生活という観点について、新たな計画ではそれらがどのように変わるのかが、分かりやすく伝わるよう工夫する必要。
- 北海道の人口は400万人に減る可能性がある。その時どうするのかという事を今から考えていく必要。
- 世界の動きや時代の流れが非常に速くなっている。北海道を取り巻く環境も大きく変化していく。そういうことにどう対応していくのかという視点も重要。
- 北海道を考える時、札幌をどうするかという議論が必要。札幌に全て集中させるというものと、それぞれ一定に分散させるという、2つの極端な考え方があり、札幌がどのような役割を担うのかという事に繋がる。
- 石炭産業で生きてきた地域が、どのような形で将来設計を持って行こうかというのが、今、非常に不安定な状況。
- 北海道の持つ自然などの魅力や他の地域には無い素晴らしさをどうやって守り、食や観光産業などをどうやって世界に発信していくかというのは、北海道にとって大きな課題。北海道はいずれ求められる地域になると思うし、そうあるべき大事な島である。
- 地方の集落に専門性のある人がそれ程いない。人口が減っていけば、集約化したとしても、一人で二役三役やらないと集落が成り立たない。複数の事が出来る空間があり、高次の教育を受けた女性が地域に住んでいるというのは、将来の北海道の大きなパターン。その時には教育が大切。都市よりも地方に住む人の方が、

複層的に物が処理でき、教育レベルも高いという事にならなくてはならない。それを支えるようなシステムを北海道でつくる事が出来れば、日本のリーディングエリアになれる。

- 人口低密度地域の集落をどうつくるかと言った時に、単に街に集まると言うのではなく、集まることによって、ある程度の教育や医療が提供されるような高度な集落が構成されなくてはならない。北海道では、本州のように土地の境界で喧嘩しているといった事が無いのだから、色々な事が出来る。パイオニアワークを、100年前に遡ってもう一度、次の100年のために北海道がやっていく必要。
- 外から北海道を見ると、温暖化の中で寒冷地であることが良さであり、食や世界を対象とした観光の大きな目玉になる。
- 地域づくりを拡散型でやった場合はこうなる、拠点型ならこうなるといった目安を明確にした形で将来像を示せば、北海道に住んでやってみようという人にとって分かりやすい。
- 世界との繋がりについて、食や森林といった時に、海外に耕作地を貸すと言った画期的にやっていく様な発想があってもよい。また、グリーンツーリズムについて、具体策が無いと絵に描いた餅になってしまう。
- 将来の北海道より人口密度が低い国はいくらでも先進国の中にある。これまでは、本州型の生活に近づけようというスタイルできた。今後の人口減少下では、北海道は率先して、ソフトランディングを上手に姿良くできるかという問題というふうに認識した方がよい。
- 大連など、札幌より少し北にある拠点都市と比べて、そんなに札幌は凄い機能が揃っているかという、そうではない。北方の中での札幌の拠点性をまだ高めうるし、高めない限り北海道全体の拠点性も無くなる。
- 浜の人間として、新たな計画における浜の役割は何なのかといったことについて、意見を聞きたい。
- 漁民が見て不思議に思うのは、港湾と漁港の違いであり、進捗の状況が非常に違う。
- 海洋レジャーなどについても、具体的にになった時には、計画の中に盛り込んで欲しい。
- 太陽光は、北海道に有利な資源である。稚内において国の事業で大規模太陽光発電実証実験装置が建設中。
- 少子化問題については、北海道の町村部では分娩が出来ないといった深刻な状況。
- グローバル化の中で、北海道の産業にとって、物流も大切だが、人の行き来も重要。

以上

(速報のため、事後修正の可能性あります。)